

第3回 三重県立白山高等学校「学校運営協議会」「活性化協議会」概要

令和3年2月18日(木)
於：白山高等学校 会議室

1 あいさつ

白山高等学校長

- ・コロナ禍の開催のため、本日の協議会を少人数での開催とした。
- ・前期選抜が終了し、49名の合格者。今週土曜日に、冬期学校説明会実施予定である。

三重県教育委員会

- ・コロナの影響もあり、ICTの整備が進み、生徒の学びも大きく変化している。
- ・来年度1年間で、新しい活性化計画を立てる予定である。

2. 報告事項

- (1) 第2回「学校運営協議会」「活性化協議会」概要について(別紙)
別紙の通り。
- (2) その他

3. 協議事項

- (1) 令和2年度白山高校 学校マネジメントシートについて(P.3～)

- ・オンライン授業の導入。各教室へのプロジェクター設置。
- ・生徒の規範意識、社会性を育成。
- ・卒業生、地元企業の方からの講話を実施
- ・命を大切にする心・・・コロナに対する不安を除くための、SC、SSWとの連携。
3年生向けの講演会、5つの分科会実施。

- ・人権・・・講演会、人権LHRの実施について

<改善課題について>

- ・コロナ禍で感染予防を考慮しながらの実施。
- ・将来の不安が大きい生徒が多い。一人ひとりの面談(保護者も含め)100%実施できた。
- ・地域美化の取組。
- ・ケース会議で取り組んだ課題が解決した割合は10%。生徒の課題解決のために継続して取り組んでいる。3年2人、2年1人、悩みが深い生徒がいる。保護者に対してもカウンセリング実施した。

- (2) 令和2年度地域と連携した白山高等学校の取組について(別紙)

- ・昨年度は46件実施。○印は、生徒の主体的な活動を示している。
- ・今年度も同じように活動できるものについては行なうことが出来た。来年度以降も続けていきたい。

- (3) 令和2年度地域課題解決型キャリア教育について(P.9～)

- ・2年・・・各事業所でインタビューを行ない、事業所のPR動画を作成した。(20回の取組)
- ・3年・・・名松線についての調べ学習に始まり、“名松線を元気にする会”“ハセ写真館”から講話やアドバイスをいただき、“浜松学芸高校”とは協働プロジェクト(ポスター作成)を実施。(16回の取組)

(4) 令和2年度 活性化プランに基づく進捗状況について

- ・本校の生徒は9割以上が地元以外から通ってきている。地域の行事へ参加することや、インターンシップの受入事業所として地域にお世話になっている(8年間)。コロナ禍での対面は難しいため、「恩返し」をする形での関わり方を模索した。
- ・2年：家城・川口地区の事業所へインタビューに伺い、紹介文・地図を作成して、生徒全員が全体の前で発表する機会を持った。個人ではなくチームで動いた。
- ・3年：「名松線勝手に応援団」と称し、ポスター作成を行った。JR.や行政、津市観光協会等の協力もあり、様々な場所に掲示していただいている。
- ・名松線ポスターは、恩返しとして、無料で配布させて頂いている。
- ・生徒達および関わった方に誇らしさのようなものが伝わり、生徒達の達成感を高めることが出来た。
- ・地域の外部人材 13件。連携件数 60件以上。
- ・長期インターンシップの受け入れは、来年度普通科全員の受入を承諾して頂いている。
- ・部活動の加入率が例年に比べ低い。6月スタートとなり、部活動紹介もなかったことが影響している。実質、もう少し加入率は低い
- ・家城駅前の花壇づくり(自治会)に参加させて頂いた。
- ・志願状況としては、平成31年度からの減少率が激しい。私学に多くの合格者が出たことと、県全体の定数枠の妥当性が関係しているのではないかと。
- ・学校の規模が小さくなると、生徒の様々な選択が可能ではなくなる。進路希望に応じた科目設定が出来なくなるのは避けたい。いかに魅力を高めて生徒に来てもらうかを検討していく必要がある。

(5) その他

- ・白山高校の強みは、地域と連携しやすいことではないか。白山地域の受入があるので、身軽にやれる。行政・地域・学校が一体になれることも、強みである。
- ・成果発表会を学校だけで終わらせるのはもったいないのではないかと。動きのあるもので、白山地域でも、三重県内でも発信していけるのではないかと。
- ・少子化で、定員が減るのは仕方ないが、存続させていくためには、どうしていくか。
- ・一人でも二人でも、魅力を感じる目的を作れるといい。間口を広げるといいのではないかと。白山に来る目的を作るとよい。
- ・たくさんの生徒ではないが、確実に保護者や先生方の声は変わってきている。
- ・今年、津市コミュニティバスの再編を行なった。3日運行が基本であるが、白山地域には白山高校があるため、特別扱いを認められた。白山高校のイメージが変わってきている。
- ・学校自身が学校のPRをもっとやっていくことが必要。生徒自身が主体的に作っていったらどうか。キャッチフレーズなど。
- ・今年の文化祭は、文化行事に特化して、食品バザーなしだったが、とても盛況だった。部活動を思う存分やらせてあげられなかったのは、残念だった。
- ・コロナ禍の中で、学校の取組としてこれだけのことをやられていて素晴らしい。学校の、日常の素晴らしさやありがたさを、言葉、行動にして伝える事で、学校の中での期待感になっていくのではないかと。

4. 連絡事項

(1) その他